

第 161 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 4 年 5 月 12 日（木）13:30～14:30

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

・会議の概要

＜報告事項＞

◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。

＜議題＞

◇ 沖縄県対処方針の変更について

◇ コロナ感染拡大警報の発出について

◇ GW後の子どもの感染拡大を抑制する取組について

1 参加者

玉城 知事、照屋 副知事 池田 副知事、島袋 政策調整監、溜 基地対策統括監、宮城 総務部長、儀間 企画部長、金城 環境部長、宮平 子ども生活福祉部長、系数 保健医療部長、下地 農政企画統括監、松永 商工労働部長、宮城 文化観光スポーツ部長、島袋 土木建築部長、名渡山 会計管理者、半嶺 教育長、我那覇 病院事業局長、松田 企業局長、喜屋武 警備第二課長 宮里 感染対策統括監、高山 政策参与、テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

2 報告事項

(1) 沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

➤ 総括情報部から最新の新規陽性者及び療養者の状況について報告【資料 1】

✓ 5/11 の新規発生は 2,702 名となっている。

(2) 沖縄県内及び全国の感染状況について【資料 3、3-1～3-10】

➤ 総括情報部から、警戒レベル判断指標の状況や各種分析資料について報告。

✓ 判断指標の人口 10 万人当たりの新規陽性者数は 5/11 に 800 人台、病床使用率は 53.1%、国基準の重症者用病床使用率は 31.7%と上昇している。

✓ 参考指標の、新規 PCR 検査の陽性率は 20%台が続いている。直近 1 週間の新規

陽性者数の前週比は緩やかな下がり傾向だったが、5/11に1.40と急激な上昇をしている。

- ✓ 療養者数について、急激な新規陽性者数の増加に伴い、入院者数は335名となっており、重症者数も7名となっている。宿泊施設療養中は600名で推移しており、自宅療養中の11,896名に入院等調整中の感染者と合わせて、5/14の療養者数は15,014人となっている。
- ✓ 非コロナ病床については、5/11の総合計は95.2%となっており、特に中部では99.1%と高い水準となっている。
- ✓ 直近1週間の人口10万人あたりの新規陽性者数は沖縄県が全国1位。北海道が2位で、3位以下は九州を中心に感染拡大している。
- ✓ 市町村別で見ると、各市町村で軒並み1.00を超える状況であり、圏域別に見てみると八重山が若干低い各圏域で増加傾向にある状況となっている。
- ✓ 新規感染者に占める60歳以上の割合を見ると、依然10%前後で推移しているが、今後入院患者や重症患者等が増えていると変動があるのか注視しているところ。
- ✓ 患者受入医療機関の就業制限(休業)状況を見ると、5/11で499名が休業している状況で、中でも看護師が259名と半数以上を占めている。
- ✓ 5/2の週における県外からの移入例は49人となっており、全体に占める割合は1%を切る状況が続いている。4月4週目は14都道府県、5月1週目は17都道府県からの移入例を確認している。
- ✓ 沖縄県疫学・統計解析委員会の分析によると、実効再生産数については、沖縄本島1.17、宮古1.13、八重山0.82となっており、大型連休中は検査数が減少する傾向にあるため、潜在的には未報告の感染者が多数いるものと考えられる。
- ✓ 年齢階級別の増減率を見ると、10代において急速に増加して最多が続いている

が、高齢者を含め全世代で感染が拡大している。

- ✓ 5/2の週末時点における確保病床の病床占有率は、沖縄本島 50.9% (265/521)、宮古地区 37.9% (25/66)、八重山地区 6.8% (3/44) となっており、宮古における病床占有率が急速に高まっている。
- ✓ 今後の見通しと対策として、沖縄県では、もともと親族や地域の交流が活発であり、人口に占める子どもの割合が全国一高く、兄弟の数も多いことから家庭内感染のリスクは高いと考えられる。
- ✓ ゲノム解析の結果、検体の9割以上は感染力の強い「BA2」系統のウイルスであり、置き換わりが進んでいると考えられる。
- ✓ 大型連休入りするにあたって、沖縄県は、県民生活と社会生活に強い制限をかけない選択のもと、感染リスクの高い活動を減らすよう呼びかけたが、県内の感染は拡大している。
- ✓ 5/9の週の新規陽性者数は13,000-19,000人、週末までに入院患者数は410-480人に至り、重症者数は8人前後と見込まれる。
- ✓ 今後入院リスクの高い高齢者へ感染拡大が持続すると、5月中旬までには病床不足が顕在化し、コロナ感染者に限らず必要な医療が提供できなくなる恐れがある。
- ✓ 現時点では、活動的な子どもや若者が感染の中心であり、ほとんどが軽症のまま回復するため、入院が必要な方への医療は確保されており、感染拡大を抑えるうえで重要なタイミングとなっている。
- ✓ 症状を有する方が外出を控えるなどの呼びかけは繰り返されており、より強い制限を求めるべきかについて総合的な行政判断が求められる。

(3) 沖縄県の人口変動状況について【資料5】

➤ 沖縄県の人口変動状況について、総括情報部より説明があった

- ✓ 沖縄県内の人口変動状況について、繁華街エリアでは、1月に比べると人流が

増加している。空港エリアについて、0を超える日も見られる。

(4) 宮古・八重山地域の感染状況

- 宮古・八重山地域の感染状況について、総括情報部より説明があった。
 - ✓ 宮古圏内の新規感染者数は、直近2週間前は90人台で推移していたが、100人を超え、5/10には155名という数字になっており、入院患者数も2週間前まで2名だったが5/11には38名出ている。
 - ✓ 八重山圏内の新規感染者数は60~70人台で推移しており、現在でも続いている。入院患者数も1桁台で推移している。

(5) 検査事業実績について【資料8】

- 検査事業実績について、総括情報部より説明があった。
 - ✓ 一般の無料検査では、陽性率が11.76%と高い陽性率となっている。

(6) ワクチンの接種状況について【資料9】

- 総括情報部より報告。
 - ✓ 5/10時点での接種実績として、1回目71.3%、2回目70.4%、3回目40.6%が接種済みとなっており、3回目の接種は高齢者の81.6%が接種済みとなっている。
 - ✓ 3回目接種の方を対象に、5/14にイオンモール沖縄ライカムで接種を実施する。
 - ✓ 県内全市町村の高齢者の75%以上に接種実施済み。
 - ✓ 職域接種は県内で17団体から申請があり、現時点で10団体で開始済み。
 - ✓ 4/30のサンエー那覇メインプレイス臨時会場では、499回の接種実績となった。
 - ✓ 5/14のイオンモール沖縄ライカムでの接種について、120名の事前予約が入っている。
 - ✓ 県広域ワクチン接種センターの実績としては、10企業、4大学、3専門学校の

421 名に接種を行った。

- ✓ 市町村接種会場では、1 企業へ接種をしており、2 大学 1 専門学校で調整中となっている。

(7) 県立病院の状況について

➤ 病院事業局より県立病院の状況について報告

- ✓ 5/11 時点の県立病院の入院患者数は全体で 105 人となっており、前週 (61 人) 前々週 (62 人) に比べると増加傾向で、沖縄県の入院患者 389 名のうち 27.0% を占める。県立病院が現在確保しているコロナ病床の稼働率は 52.8% である。
- ✓ 県立病院の入院者数の内訳としては、北部病院 29 人、中部病院 26 人、南部医療センター 30 人、宮古病院 7 人、八重山病院 6 人、精和病院 7 人の計 105 人となっている。非コロナ病床稼働率は中部病院で 97.3%、次いで宮古病院で 95.5%、その他は概ね 80% 台後半となっている。
- ✓ 北部病院では、サービス高齢者住宅、グループホームで職員、入所者の陽性が増加している。原則ステイで訪問診療を行っている。伊平屋島の施設で職員の陽性者が発生し、PCR 検査、応援に病院職員を派遣する。一般病床の稼働率が高いが退院を促進し病床を確保する。4/25 に発生したクラスターは、累計感染者 6 人全員が回復し新たな感染者の発生もないため、5/6 をもって終息した。
- ✓ 中部病院では、先週に引き続きコロナ感染妊婦の周産期医療が逼迫した状況である。(周産期リエゾン報告：毎日 10 人以上の妊婦陽性者が発生し、毎日のように陽性者の出産がある) この状況を踏まえ琉大、那覇市立、赤十字、ハートライフ病院等には更に受け入れてもらえるよう働きかけてもらいたい。
- ✓ 南部病院では、5/9 に入院患者 11 人、職員 3 人、計 14 人のクラスターが発生した。子が罹患し親子入院が 3 組。一時オーバーベッドになった ICU は現在空床を確保できた。本日病院 HP で 3 度目になる BCP 発動を告知する。

- ✓ 宮古病院では、徳洲会病院の救急が一時中止したため患者は増加しているが、救急には対応できている。看護師の応援については事業局から1人、5/16から厚労省より応援3人が派遣予定。
- ✓ 八重山病院では、4/27に発生した職員6人のクラスターは、最終的に入院患者1人、職員11人、計12人となったが、感染者全員が回復し新たな感染者の発生もないため、5/6をもってクラスターは終息した。
- ✓ 精和病院では、就業制限の職員は17人で増加している。看護師の陽性者が出ており、急性期病棟を一時閉鎖し他の病棟で入院を受け、精神科救急輪番が継続できるか検討中。
- ✓ 県立病院の医療従事者の休業者は176名となっており、今年1月の210名に次いで多くなっている。子どもが陽性になり休業しなければならなくなった職員が3割を占めており、子どもの感染拡大を防ぐことが重要となっている。
- ✓ 救急医療については制限がないが、一般診療については検査、手術の延期や入院受け入れの制限などが行われている。

(8) 宮古・八重山地域の感染状況について

- 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 宮古では1週間で800名程度の感染者が発生しており、全国の前週より1.3倍となっている。人口10万人あたりの陽性者数は1,300人を超えたところ。全国平均の7倍、県平均の1.5倍。八重山の2倍。
 - ✓ 累計患者数は6,800人を超え、罹患率は12%。アメリカでは60%超が感染ということで、まだ罹る人は残っている状態。
 - ✓ 第7波では既に3,000人を超え、第6波の1.5倍となっている。第4波と比べると7倍。

- ✓ 年齢別に見ると 30 代が 1 番多く、次いで 10 代となっており、10 歳未満の陽性者は前回から下がって 15%、10 代も 18%となっている。学校が休みだったことが要因かは様子を見ないとわからない。その代わりに 60 代以上が 19%と急増している。感染のまん延状態が進み、高齢者の割合が増え、流行の最終段階に入ったと考えられる。
- ✓ 施設での感染について、今週は 14 件ある。施設の累計は 81 施設、職員 94 名、利用者 102 名で約 200 名の施設関連の感染者が出ている。
- ✓ 医療機関のクラスターについて、職員 13 名入院患者 37 名で二病棟にまたがる過去最大の規模。入院患者 80 名のうち約半数となる 37 名の患者が陽性となった。職員 1 名が陽性になり、翌日も 1 名陽性者が出たため、スクリーニングを行った結果判明した。拡大要因は調査中だが、3 階病棟内の面談場で初期クラスターが発生し広がったと思われる。4 階の患者は急性期長期療養で動き回ることはないため陽性者は少なくなった。
- ✓ 宮古保健所の職員を 10 名増員予定だが、現状は 7 名足りない。外部から 13 名派遣してもらっている。内訳は出先から 6 名、市から 2 名、本庁からロジ 2 名 DMAT 2 名保健師 1 名となっている。
- ✓ 疫学調査は現在一日 180 名程度対応できているが、休日でやや遅れが出てしまう傾向にある。
- ✓ 幼稚園保育園の疫学調査については県と同じ方針変更。
- ✓ 新規陽性者数を減らすのは難しいが、ワクチン接種に併せて行動制限などの施策は必要ではないか。
- ✓ 出先連絡会議で情報提供と増員計画について依頼。
- ✓ 経済を優先するとクラスターについて認定されるまで時間がかかるので、施設何件でているか、利用者職員何人でているかの報告は可能だと思う。病床、医療関係のひっ迫だけを訴えても県民に響いていない気がする。

- 八重山地方本部から八重山地域の感染状況について報告。
 - ✓ 4/29の週の感染者は252名で前週比0.6倍程度と下がっていたが、ゴールデンウィーク明けの5/9から新規陽性者数が増加に転じた。5/5から5/11の新規陽性者は326名で、前週比1.4倍になっている。
 - ✓ 年齢別に見ると10歳未満、10代の陽性者が多く、幼稚園や学校での発生が多い。
 - ✓ 高齢者の入所施設では、連休中に施設職員から陽性者が発生しており、職員3名、利用者6名が陽性。八重山病院と保健所の保健師が施設に立ち入り感染対策についての確認を行うこととしている。
 - ✓ 在宅の介護者でも散発的に見られるため、注視している。
 - ✓ 竹富町では3つの島から15名、与那国町では7名新規感染者が発生。いずれも10代、10歳未満が中心となっている。
 - ✓ 観光客の感染者は少なかったが、ホテルや民宿などの業種で多く確認されている。
 - ✓ 八重山の体制として、今年度から宿泊療養施設を直営にし、看護師に疫学調査をお願いしている。

(9) 空港PCR検査プロジェクト・TACO・RICCAの運用状況等について【資料10】

- 文化観光スポーツ部から、空港PCR検査プロジェクト・TACO・RICCAの状況について報告。
 - ✓ 空港PCR検査プロジェクトについて、5/2の週の受検者は4,455人で、前週比+1,089人。うち162人が陽性であった。
 - ✓ 感染状況の厳しい宮古では受検者数が927人と、前週比で最も増加した。
 - ✓ 那覇空港抗原検査について、受検者は551人で、その内陽性は11人であった。

迅速 PCR 検査で 9 名、同行者の検査で 2 名となった。

- ✓ TACO について、5/2 の週の電話対応件数は 20 件で、うち健康相談・問診実施数は 9 件となっている。
- ✓ RICCA について、5/6 時点の登録者数は 149,305 人となっている。(前週より+535)

(10) 報告事項への意見等について

- 意見なし。

3 議題

(1) 沖縄県対処方針の変更案等について

- 総括情報部より、沖縄県対処方針の変更案等について説明があった。
 - ✓ 要請期間を 5/13~5/26 に変更。
 - ✓ 現況として、4 月中旬以降抑制されていた新規陽性者がゴールデンウィーク後に再び上昇に転じており、病床使用率についても本島圏域が 55.7%、宮古圏域が 57.6%と急速に悪化している状況を踏まえ、コロナ拡大警報を発出し、医療ひっ迫を食い止めるよう取り組んでいく。
 - ✓ GW後の子どもの感染拡大を抑制する取組について、即効性がある対策として、①登校時、②教室・屋内、③部活、④学童・塾、⑤下校・帰宅時、⑥自宅の 6 つの場面に分け、学校や経済界、マスコミ等を通じて周知を行う。

(2) 議題についての意見等について

- ✓ コロナ感染拡大警報について、期間を大きく記入した方がよい。また、医療がひっ迫していることも含めたほうがよい。また、医療提供体制を守るためということとは協調したほうがよいと思う。

→意見を反映させ、文言およびレイアウトの修正を行う

- ✓ 高齢者施設でどれだけの陽性者が発生しているかを伝えてほしい。クラスターで認定されていなくても、例えば5名以上陽性者が発生した場合など。病床使用率がひっ迫する前には高齢者施設で陽性者が複数発生することを伝えることにより、今後のサーベイランスや県民への注意喚起にも繋がると思う
→高齢者施設での発生については、施設支援班に相談があった分については把握しており、情報提供することは可能。厚生労働省は高齢者施設で発生した際には県に報告をすることとしており、今後システムとして施設から報告が上がるようになることを注視していきたい。
- ✓ 学校等への要請の項目にワクチン接種を推奨することを記載すべきではないか。
→ワクチン接種についてはさまざまな考えを持っておられる親御さんも多く、接種を推奨とすると同調圧力と捉えられる恐れがある。
→現状として10代での感染者が多く、対策をする必要はあるので、関係部局と連携して対応していただきたい。
- ✓ 各学校に対し、教育長名で「児童生徒の感染拡大を抑制する対策の徹底について」文書通知を行った。10代での感染拡大が広がっており、5月末から始まる高校総体及び中体連などの大会が実施できるよう2週間は関係者が協力して対策を実施し、5月までに一定程度感染を抑え込むことを目的としている。部活動での感染拡大を防ぐことと、子どもたちの活動を抑えるため、学校や部活、塾帰りにまっすぐ帰宅することを重視した内容としている。
- ✓ ケアマネ協会へ患者へのワクチン接種の勧奨のお願いとして文書の発出を行った。接種してない方については理由を報告してもらった結果、沖縄県でケアマネがついている方は18%で多くは要介護者。ワクチン接種をしていないとデイサービスが利用できないため、ほとんど接種済みとなっている。まだ接種できていない方は、独居老人や生活保護の方となっており、配慮が必要な方に

は地域包括支援センターや民生委員を、生活保護者には福祉事務所から勧奨するよう文書を発出している。

- ✓ 高齢者施設の中には精神疾患をもっており、家族とも疎遠のためワクチン接種の同意が取れずに未接種で、重症化やクラスターが発生した事例がある。また、ワクチン接種に対して不安がある患者にうまく説明ができていないケースや、ワクチン接種を進めて接種した患者が副反応で苦しむ姿を見たくないといった現場の声もあるため、現場の職員のメンタルケアなども含めて対応していただきたい。

➤ 総括

- ✓ 議論の結果、沖縄県対処方針の変更（5月26日までの延長）及び本島圏域（本島内市町村）、宮古圏域へコロナ感染拡大警報及びGW後の子どもの感染拡大を抑制する取組について決定し、発出することとした。

閉 会